



学生駅伝結果報告

第53回 全日本大学駅伝・第98回 箱根駅伝



中央学院大学

22回目の挑戦は、 新ユニフォームで 箱根路を駆け抜けた

前回は予選会で敗退して、
連続出場が18で途切れた。
その涙を力に変えた。
2年ぶりの箱根駅伝は総合16位。
タスキを最後までつないで、
栄光の舞台を力強く駆け抜けた。

東京箱根間往復大学駅伝競走
KRR 主催 関東学生陸上競技連盟 共催 読売新聞社 特別後援 日本テレビ放送網 後援 報知新聞社



2022/1/2

往路は18位苦しい レースを戦った

1区はエース栗原が
大誤算

昨年10月の箱根駅伝予選会を7位で突破。2年ぶり22回目の出場となった第98回箱根駅伝はフラッシュイエローのランシャツと黒のパンツという「新ユニフォーム」で登場した。

1区は箱根駅伝予選会で日本人トップを奪ったエースの栗原啓吾（4年）。「後輩にシード権だけは残したい。悔いのない走りをしよう」と強い思いを抱いてスタートラインに立った。レース前半は集団についていき、終盤のスパートで上位に食い込むプランを描いていたが、5kmを超えたところで集団から遅れ始める。その後もペースが上がらない。

「箱根予選会後から疲労が取れない感じで、チームの練習についていくのもきつい状態でした。スタート直前も調子が悪かったんです」と栗原。それでも肩を揺らしながら、懸命に前を追いかけた。トップの通過から4分07秒後、鶴見中継所に最後のランナーとなった栗原が姿を現すと、紫色のタスキを1年生につないだ。

2区はルーキー
吉田が力走

「花の2区」には吉田礼志（1年）が挑戦した。5月の関東インカレ男子2部5000mで7位入賞を果たした逸材だが、夏に肺炎胸で入院。その後、驚

異的な回復を遂げて、川崎勇二監督がエース区間に抜擢した。

最下位スタートと予想外の展開になったが、「少しでもいい位置でタスキを渡したい。少しでも僕が流れを変えるんだ」という思いで序盤から飛ばす。横浜駅前（8・2km地点）は11番目のタイムで通過した。しかし後半は苦しみ、区間18位でレースを終えた。

「権太坂までは余裕があったんですけど、最後の上りでしんどくなりました。自分の走りができませんでした」と悔しがった。

復帰した武川が3区を好走

3区は前々回6区を区間5位と好走した武川流以名（3年）。一昨年秋季頃から痛みを感じていた左足親指は昨年6月に疲労骨折が判明。10月から本格的な練習を再開したが、痛みは消えていなかった。

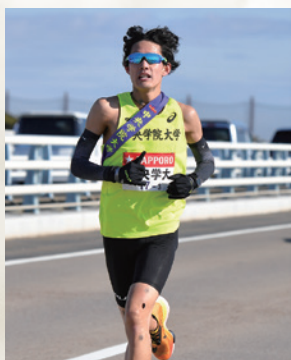
「前半の下りは力まずに余裕を持って走れたんですけど、10kmを過ぎて海岸沿いに出てからきつくなりま



10000mで28分03秒39の大学記録を持つ栗原啓吾（4年）は1区で苦しんだ。



最下位スタートも2区に抜擢された吉田礼志（1年）は力走した。



武川流以名（3年）はスピード区間の3区を区間10位と好走した。

した」と武川。それでも2区終了時に1分21秒差のあった専修大学を15km手前でかわして19位に浮上した。厳しい展開のなかでも設定タイムと10秒差の1時間3分10秒(区間10位)で走破。「正直状態が良くなかったので不安でしたが、しっかりとまとめてくれました」と川崎監督は評価した。

4区伊藤は単独走に苦戦

準エース区間となる4区は伊藤秀虎(2年)が出走した。アップの時から調子は上々で、56秒先にスタートした駿河台大学を猛追すると、5km付近で抜き去った。しかし細かいアップダウンが続くコースと単独走に苦戦。後半はペースダウンして、区間19位と伸び悩んだ。

「ペースがつかみにくく、1kmあたり3分で走るともりがいつの間

に3分05秒になるなど、遅くなっていました。自分で淡々とリズムを刻めなかったのはひとりで走る力がそこまでついていなかったと思います」と伊藤は反省点を口にした。

5区吉本は区間10位と健闘

川崎監督が「自信」を持っていた山上りの5区は吉本光希(3年)。予定より速いペースで攻め込み、大平台(7・0km地点)を6番目のタイムで通過する。しかし、終盤は股関節に痛みが出て思うように動かない。往路ゴールの芦ノ湖に18位(5時間36分04秒)でフィニッシュした。

小田原中継所を飛び出した地点で前を行く東海大学とは4分17秒差があり、「自分でペースを作るのが難しかったです。焦りや緊張はありませんでしたが、感覚がいつもと

違って序盤に速く走ってしまいましたが」と吉本。目標タイム(1時間11分25秒)より2分近く遅れる1時間13分17秒の区間10位に終わり、「チームに迷惑をかけてしまいました」と自身の走りには納得はしていませんでした。

往路を終えて、10位の東海大学とは6分50秒差。苦しい前半戦となったが、中央学院大学の選手たちは前を見つめていた。川崎監督は「シード権の獲得は厳しくても、自分たちのやるべきことをしっかりとやって、設定したタイム通りに走ろう」と復路の選手たちを送り出した。

2022/1/3
復路は14位タスキを最後までつなげた

6区工藤が区間4位の快走

復路は8時10分、中央学院大学を含む5校が一斉スタート。6区工藤巧夢(1年)は序盤こそ周りの様子をうかがっていたが、3km付近から集団を抜け出した。

「感覚的に遅いと感じていました。いいリズムのまま走れば、下りに入った後につながる。だから自分のペースで行こうと決めました」

単独走になり、ペースを上げると、快調に山を駆け下りていく。そして58分48秒の区間4位と快走した。それでも「坂を下り切った後のラスト3kmで切り替えることができなくて、課題が残るレースになりました」と自身の走りに満足はしていなかった。

7区松井は笑顔で駆け抜ける

7区松井尚希(4年)は駿河台大学・新山舜心(2年)とほぼ同時にタスキを受け取った。前半は抑えて、後半にペースを上げるプランを描いて



6区工藤巧夢(1年)は区間4位。未来を担うルーキーが快走した。

いたという。1万m28分台の新山と一緒に走ることでもリズムを作ろうとしたが、10km通過が想定(29分35秒)よりも30秒ほど遅くなった。それでも最後は駿河台大学をしっかりと突き放して、タスキをつなげた。

8区馬場は設定通りの好走

川崎監督が重要視している8区は学生駅伝初出場となった馬場竜之介(4年)。「1時間6分切り」が目標だった。予定通りにペースを抑えながらも7秒先にスタートした関東学生連合・大野陽人(大東文化大学3年)をとらえた。その後は追い上げてきた専修大学、駿河台大学と4人の集団を形成して前を追った。レースが動いたのは15km過ぎにある遊行寺の坂だった。大野が仕掛けたタイミングで馬場も切り替える。



4区伊藤秀虎(2年)は駿河台大学をかわして順位を上げた。



単独走となった5区吉本光希(3年)は区間10位で走り、往路を18位で折り返した。



9区吉田光汰（4年）は思うようにペースが上がらなかった。



10区中島稜貴（3年）は区間8位と好走して16位でゴールした。

箱根駅伝個人成績

区間 距離	氏 名	学年	区間順位	区間タイム
1区(21.3km)	栗原 啓吾	4年	20位	1時間4分47秒
2区(23.1km)	吉田 礼志	1年	18位	1時間10分13秒
3区(21.4km)	武川 流以名	3年	10位	1時間3分10秒
4区(20.9km)	伊藤 秀虎	2年	19位	1時間4分37秒
5区(20.8km)	吉本 光希	3年	10位	1時間13分17秒
6区(20.8km)	工藤 巧夢	1年	4位	58分47秒
7区(21.3km)	松井 尚希	4年	14位	1時間5分15秒
8区(21.4km)	馬場 竜之介	4年	12位	1時間6分8秒
9区(23.1km)	吉田 光汰	4年	17位	1時間10分53秒
10区(23.0km)	中島 稜貴	3年	8位	1時間10分26秒

「故障害者が多く出たなかで予選会を突破して、最後までタスキをつなぐことができました。またシード権を獲得できるように取り組んでいきたいです」（川崎監督）
今回は3年生主将・小島慎也、川田啓仁（3年）、堀田晟礼（1年）という主力を起用できなかっただけに、フラッシュイエローの「逆襲」は始まったばかりだ。

箱根駅伝総合成績

順位	大学名	総合記録
1位	青山学院大学	10時間43分42秒
2位	順天堂大学	10時間54分33秒
3位	駒澤大学	10時間54分57秒
4位	東洋大学	10時間54分59秒
5位	東京国際大学	10時間55分14秒
6位	中央大学	10時間55分44秒
7位	創価大学	10時間56分30秒
8位	國學院大学	10時間57分10秒
9位	帝京大学	10時間58分06秒
10位	法政大学	10時間58分46秒
11位	東海大学	10時間59分38秒
12位	神奈川大学	11時間00分00秒
13位	早稲田大学	11時間00分03秒
14位	明治大学	11時間00分28秒
15位	国士館大学	11時間03分06秒
16位	中央学院大学	11時間07分33秒
17位	日本体育大学	11時間11分11秒
18位	山梨学院大学	11時間11分21秒
19位	駿河台大学	11時間13分42秒
20位	専修大学	11時間15分09秒
O P	関東学生連合	11時間00分25秒

第99回大会へのシード権獲得



7区松井尚希（4年）は区間14位ながら笑顔で箱根路を駆け抜けた。

9区吉田はリズムをつかめず

「集団がバラけた時にうまくついていくことができませんでした。ラストで離されましたが、粘ることができたと思います」と馬場。17位に順位を押し上げる走りを見せた。1時間6分08秒（区間12位）で走り切り、川崎監督も「設定タイムとほぼ同じでしたので、力を出してくれたと思います」と馬場の4年間を労った。

10区中島が16位でゴール

ようという指揮官からの指示を優先。16位に順位を上げながらも、区間17位と振るわなかった。「序盤でリズムを作ることができずに後半上げられませんでした。悔いが残っています」と無念を口にした。

「当初から起用を考えていました。本人も9区を希望していましたし、部員もそのつもりでした」と川崎監督は当日変更で復路のエース区間9区に吉田光汰（4年）を投入した。シード校と予選会校の違いを痛いほど知っている吉田は、少しでも前を行く大学との差を縮めたい気持ちであふれていたが、前半は抑える

アンカーを担った中島稜貴（3年）は「ひとつでも順位を上げようと思っていました」と気合十分。15km付近で川崎監督から「スピードが落ちているぞ」という声を受けるとリズムを変える。区間8位と好走して、大手町のゴールに総合16位でフィニッシュした。

「レースが高速化しているので序盤を思い切って入りながら、後半も粘る走りができるようにならないといけないと思いました」と中島。強豪校の走りを肌で感じたことは来季につながるだろう。自分たちの流れを作れずに往路18位、復路14位、総合16位。目標にしていた8位には届かなかった。それでも悔しさや苦しさが残ったわけではない。2年ぶりに箱根駅伝のステージに立てたからこそこの収穫もあった。



復路の要となる8区は馬場竜之介（4年）が区間12位と健闘した。

2021/11/7

第53回

全日本 対校選手権大会

箱根路につながる激走、
全日本大学駅伝は終盤に
順位を押し上げての11位

一昨年10月の箱根駅伝予選会で落
選して、チームはどん底に落とされ
た。箱根駅伝の連続出場は18で途切
れたが、新チームは躍進する。5月
の関東インカレ（2部）で4人の入
賞者を出すと、6月の全日本大学
駅伝の関東学連推薦校選考会を6
位でクリアした。

しかし、夏は故障や体調不良者が続
出。それでも10月23日の箱根駅伝予
選会を7位で通過した。9年連続
15回目の全日本大学駅伝に向かっ
た中央学院大学だったが、予選会
のダメージもあり、ベストメンバー
を組むことができなかった。



3区川田啓仁（3年）から4区吉田礼志（1年）へ

6区武川流以名（3年）



川崎勇二監督は、「箱根駅伝予選会
に全集中していたので、正直、全日
本大学駅伝の対策はほとんど進ん
でいませんでした。予選会が終わっ
てから、箱根駅伝を想定してオー
ダーを考えたんですけど、故障者も
多く、メンバー的には8人ギリギ
リという状況だったんです」と苦し
い胸の内を明かした。

1区松井尚希（4年）はトップ駒澤
大学と1分03秒差の16位と厳しい
スタートになった。2区栗原啓吾
（4年）は順位を2つ上げるが、区間
順位は11位。日本人トップを飾った
箱根駅伝予選会のような快走を見
せることはできなかった。調子を崩
していた3区川田啓仁（3年）は順
位を上げられず、逆に前のチームに
引き離された。

「1区松井は試合でなかなか結果を
出せず、今回も良くありませんで
したね。悪い流れになり、箱根予選
会のダメージが残っていた2区栗
原も厳しいレースになってしまっ
ました。3区川田は予選会が終わっ

てから状態が良くなって、3 km付
近で苦しくなったようです。序盤の
3区間は想定していたようなレー
スができませんでした」（川崎監督）
3区終了時で前の東海大学とは1
分06秒差。その後は14位での単独
走を余儀なくされた。難しいレー
ス状況のなかで4区吉田礼志（1
年）は区間10位、5区伊藤秀虎（2
年）は区間9位、6区武川流以名
（3年）は区間8位と健闘。徐々に前
との差を縮めていき、6区終了時
で13位の拓殖大学に33秒差まで詰
め寄った。

「4区吉田は長く体調不良が続いて
いて、箱根予選会の疲労もあったん
ですけど、現状を考えると合格点の
走りだったと思います。5区伊藤
もまずまず走ってくれました。6
区武川は予選会を欠場しましたし、
あまり練習ができていなかったの
で、5 km以降はペースが上がりま
せんでした」



7区吉田光汰（4年）

終盤のロング区間には各校
がエース級を起用した。その
なかで7区吉田光汰（4
年）が区間7位、8区吉本
光希（3年）が区間8位と
激走する。吉田が拓殖大学
をかわすと、吉本が帝京大
学を逆転。最後は吉本が東
海大学とのラスト勝負を制
して、11位でゴールに飛び
込んだ。

「7区吉田と8区吉本は
しっかり走ってくれまし
たね。1、3区はちょっ
と冒険した部分があり、それが通
用するほど甘くありませんでした。
それでも4区以降は予定通りとい
うか、むしろよく頑張ってくれた
と思います。15位前後で終わって
いたら、選手たちは自信を失って
いたかもしれません。特に最後、ア
ンカーの吉本が東海大学に競り
勝ったのは、チームにとってプラ
スになりました」

一昨年10月の箱根駅伝予選会で惨
敗した後、川崎監督は「変わるん
だ！」という気持ちで全面に押し出
して指導してきた。今季は3年生
の小島慎也を主将に抜擢して、ユニ
フォームもリニューアル。トレーニ
ングの質も大幅に引き上げた。その
影響で故障者も出たが、すべては箱
根駅伝で再び勝負するためだ。
全日本大学駅伝は1万mで28分台
を持つ小島と堀田晟礼（1年）がメ
ンバーから外れるなど、チームは足
並みが揃わなかった。当初は1、2

全日本

2021/11/7《総合11位》
5時間19分09秒(106.8km)

区間	距離	氏名	学年	区間順位	区間タイム
1区	(9.5km)	松井 尚希	4年	17位	28分08秒
2区	(11.1km)	栗原 啓吾	4年	11位	32分39秒
3区	(11.9km)	川田 啓仁	3年	17位	35分29秒
4区	(11.8km)	吉田 礼志	1年	10位	34分35秒
5区	(12.4km)	伊藤 秀虎	2年	9位	37分04秒
6区	(12.8km)	武川 流以名	3年	8位	38分27秒
7区	(17.6km)	吉田 光汰	4年	7位	53分01秒
8区	(19.7km)	吉本 光希	3年	8位	59分46秒

区に期待のルーキー（吉田と堀田）
を起用して、エース栗原を3区に配
置するオーダーを考えていたとい
う。それでも今季は箱根駅伝予選会
を無事に突破。全日本は終盤に順位
を上げるなど、2年ぶりの箱根駅伝
に向けて光が差し込んでいた。



8区吉本光希（3年）



2年ぶりの本戦出場

かわさき ゆうじ
駅伝部監督 川崎 勇二

コロナ禍で世間も大学もチームも非常に苦しましましたが、そのなかで活動を維持できたことは感謝の一言しかありません。その気持ちを順位に表したかったのですが、それができなく大変申し訳なく思っています。2年ぶりの箱根駅伝は、予選会を突破したことで涙していた選手もいました。正直、本戦出場を決めた時点で満足してしまった感じはありました。箱根駅伝は、『絶対にシード権を取るんだ』という雰囲気にならないと戦うことはできません。また新たな気持ちで、来年はみんなが笑顔になれる大会にしていきたいと思っています。



新たな活躍に期待を込めて

いちかわ ひとし
学 長 市川 仁

今年も新型コロナウイルス感染症の影響により、沿道での応援は叶いませんでしたが、在学生や卒業生、保護者の皆さま、そして本学駅伝部をあたたく見守ってくださる大勢の方々からの温かいご声援ありがとうございました。また、選手・駅伝部員の皆さん、日々指導に当たられている監督・コーチ、陰で支えていただいた駅伝部OBの皆さんに心より感謝申し上げます。ユニフォームを一新し、2年ぶりに箱根路を走る本学の選手を見られたことを嬉しく感じております。今年の選手の走りからは、まだ見ぬ可能性を秘めた能力を感じております。今年の経験を活かし、その力をより一層高められ、新たな活躍の姿をみせてくれることを期待しております。

選手コメント



くりはら けいご 法学部4年
東京農業大学第二高等学校(群馬県)

調子が悪く、集団の流れについていけず、1区の役目を果たすことができませんでした。それでも副将として練習を引っ張ることを任されているなかで、1年間しっかり走り通す姿勢を見せられたのは良かったと思っています。



よしだ れいし 法学部1年
拓大紅陵高等学校(千葉県)

権太坂で失速してしまったことで、上り坂が自分の課題だと改めて感じています。全日本大学駅伝と箱根駅伝の予選会で素晴らしい走りをした栗原さんに代わって、今年の箱根予選会では僕が日本人トップを狙いたいです。



ぶかわ るいな 法学部3年
島田樟誠高等学校(静岡県)

タスキをもらった順位はイメージと違いましたが、自分の走りをするだけだと思っていました。同学年で駅伝の経験を最もさせてもらっているの、まずは故障を治して栗原さんのように走りチームを引っ張りたいたです。



いとう ひでとら 法学部2年
四日市工業高等学校(三重県)

自分が本来持っている力を出しきれなくて悔しいです。集団走を想定していて、他大学の力を使おうと甘く考えていた部分がありました。練習を積み重ねて、主要大会では自分がエースとして活躍できるようになりたいです。



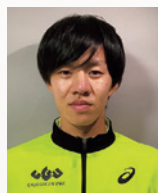
よしもと こうき 法学部3年
中央学院高等学校(千葉県)

落ち着いていつも通りの気持ちでスタートしましたが、なかなかうまくいきませんでした。来季は最上級生として一つひとつの大会でチームに貢献できるように、他大学の選手としっかり戦えるような力を磨いていきたいです。



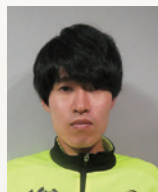
くどう たくむ 法学部1年
那須拓陽高等学校(栃木県)

目標としていた区間一桁は達成できました。今回は調子が良く、ガツガツいくことができたのが結果につながったんじゃないかなと思っています。予選会をしっかりと走って、本戦の切符を手にしてまた箱根で戦いたいです。



まつい なおき 法学部4年
咲徳栄高等学校(埼玉県)

最上級生としてチーム目標に向けて取り組んできました。最初で最後の箱根駅伝は苦しさもあったレースになりましたが、お世話になった方々や家族に走る姿を見せられたので、返還することができたかなと思っています。



ばば りゅうのすけ 法学部4年
摂津高等学校(大阪府)

きつかった、ただその一言です。特に遊行寺の坂が難所でした。4年間はしんどいことが多かったですが、箱根駅伝を走れて良かったです。3年生中心のチームだったので、来季はシードを目指して頑張りたいと思います。



よしだ こうた 法学部4年
拓大紅陵高等学校(千葉県)

最上級生としての責任があるので、区間上位で走ることができず悔しいです。前半は抑えたので、ハイペースで前を追って後悔した方が良かったのかもしれない。最低でもシード権だけは獲得したかったという気持ちです。



なかじま りょうき 法学部3年
市立船橋高等学校(千葉県)

理想のレースとは違う形になりましたが、監督の指示通りに走ることができたのかなと思います。来季のチームは離脱者がなければシード権も夢ではないので、次こそは10位以内を目指せるように頑張りたいです。



中央学院大学
箱根駅伝特集ページ

中央学院大学の箱根駅伝レポートや選手へのインタビューによるコラムを掲載中。

CGU箱根 検索



駅伝部公式
Facebookページ

中央学院大学の箱根駅伝レポートや選手へのインタビューによるコラムを掲載中。



CGU駅伝部
Twitter

箱根駅伝の臨場感あふれるつぶやきや駅伝部の旬な情報をお届けします。

@cgu_ekiden